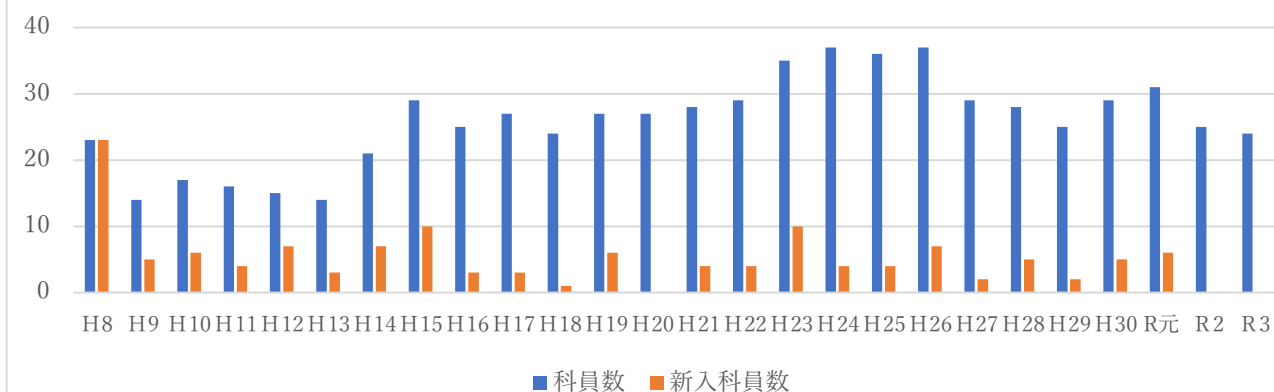


インプリ科の歩み

科員数・新入科員数の推移



	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3
科員数	23	14	17	16	15	14	21	29	25	27	24	27	27	28	29	35	37	36	37	29	28	25	29	31	25	24
新入科員数	23	5	6	4	7	3	7	10	3	3	1	6	0	4	4	10	4	4	7	2	5	2	5	6	0	0

科員の状況

インプリ科は平成8年23名のメンバーでスタートしました。翌年には14名まで落ち込んでいますが、どの研究科を目指すか模索された結果だと思われます。

平成15年新入科員は10名に上りました。この時を契機に科員数も伸び、30名弱で推移しました。

平成23年再び新入科員10名を迎えました。科員数は35名となりました。その後平成24年37名、平成25年36名、平成26年37名と充実した科員に恵まれました。

科が活力を維持するためには新入科員の入科が不可欠です。そうした中で平成20年、令和2年、続いて令和3年、危機が訪れました。新入科員ゼロです。非常に危機感を持ちました。新入科員が求めるものは何か？的確な対応が求められます。PRも必要でしょう。科員のスキルアップが図れるかも選択肢となるでしょう。自然の不思議や感動を共有することも大事。魅力的な観察地の選択も必要です。そして何より楽しいことが大切だと思っています。

現在コロナで活動休止中ですが、再開すればさらに魅力ある活動に向け科員で話し合っていきたいと思います。

自然観察

自然観察は科の原点です。私たちは自然の不思議や感動を子供たちやファミリー、そしてシニアの方々と共有したいと思っています。このためには私たち自らが感動しなければなりません。

近場の公園等での観察を通して、日々自然の不思議を発見したり教え合って、観察会を行っています。年間を通じて観察することも自然を知るうえで大切です。

定点観察会

毎年一つの公園を決め、年4回観察会を実施しています。平成20年度から始まりました。季節による植物の移り変わりを実地に観察するものです。講師の方に案内をお願いすることもあります。

H20 万博公園 児玉勝久講師

H21 大阪市立理学部付属植物園 園の職員

- H22 長居植物園 自主観察
- H23 服部緑地都市緑化植物園・緑地公園
中川義昭講師
- H24 鶴見緑地 矢吹精講師
- H25 長居植物園 岡田純子講師
- H26 服部緑地都市緑化植物園 岡田純子講師
- H27 長居植物園 田代貢講師
- H28 大泉緑地公園 田代貢講師
- H29 大阪市立理学部附属植物園 園の職員
- H30 長居植物園 自主観察
- R 元 服部緑地都市緑化植物園 この指たかれ
- R 2 京都府立植物園 園の職員
- R 3 枚岡公園 田代貢講師

日帰りバス研修

普段見れない植物を求めて年1～2回、日帰りバス研修や1泊研修を行っています。

- H16 伊吹山自然観察会
- H21 芦生研究林自然観察会
- H22 大台ヶ原自然観察会
山門水源自然観察会
- H23 千早赤阪村自然観察会
- H24 滋賀県栗東自然観察の森・タキイ種苗農場・
日吉大社自然観察会
- H25 三重県上野森林公園自然観察会
- H26 淡路景観園芸学校・明石海峡公園自然観察会
閑谷学校・備前焼観察会
- H27 但馬高原植物園・木の殿堂自然観察会
伊吹山自然観察会
- H28 大台ヶ原自然観察会
舞鶴自然文化園・舞鶴引揚記念館観察会
- H29 奥伊吹(クマガイソウ)・山室湿原自然観察会
綾部山梅林・世界の梅公園自然観察会
- H30 青洲の里・桃源郷自然観察会
- R 元 伊吹山自然観察会
片波川源流域(伏条台杉)自然観察会
- R 2 但馬高原植物園自然観察会
- R 3 成ヶ島自然観察会

1泊研修

- H10 吹田市立少年自然の家(滋賀県今津町)
- H11 曽爾高原
京都市花脊山の家
- H12 奈良平城京跡
- H13 朽木村
淡路島
- H14 芦生研究林
茨木竜王山荘
- H15 金剛山
不死王閣
- H16 交野
- H17 芦生研究林
- H18 仙台蕃山・五色沼
- H19 小豆島自然観察会
- H20 岡山県立森林公園・鳥取花回廊自然観察会
教学の森研修会(箕面市)
- H22 若杉原生林・但馬高原植物園自然観察会
- H23 三方五湖・中池見湿原自然観察会
- H24 白川郷・天生湿原自然観察会
- H25 赤沢自然休養林・千畳敷カール自然観察会
- H26 桂浜・牧野植物園自然観察会
- H27 岡山県立森林公園・蒜山・奥大山自然観察会
- H28 立山・弥陀ヶ原・美女平自然観察会
- H29 備中松山城・高梁・吹屋ふるさと村観察会
- H30 霧ヶ峰・八島湿原自然観察会

特徴ある1泊研修

平成18年6月「草木と語る」の著者渡辺正美氏の観察指導を受けるため仙台への1泊研修を実施しました。2日間熱心なご指導をいただきました。





共通講座

研究科共通の行事として設立当初から続いています。平成16年からは年6回に、令和3年からは年5回になりました。

社会貢献事業発表会

平成7年から毎年続いています。研究科が誕生してからは研究科も加わりました。事務長だった長井美知夫氏肝いりの行事でした。平成17年までは記録が残っています。残念ながらそれ以降はいつまで続いたか不明です。

研究発表会

平成11年、各科の活動や研究成果の発表を行う研究発表会がスタートしました。インプリ科では社会貢献活動の報告や研究成果の発表を行いました。また社会貢献活動を進める上で効果的な環境紙芝居「水はいのちの母」「いのちを育てる土」を制作し発表しました。

毎年続いていましたが、令和2(2020)年度、感染拡大防止を図ることから中止となりました。

合同研修(月1回)

当初は読書会からスタートし、平成16年からは月1回の現在の形になりました。

- ・3分間スピーチ
- ・輪読(読書会)
- ・話題提供

から成り立っています。社会貢献活動を進めるにあたってのスキル向上が目的です。

(3分間スピーチ) ある日の様子

進行役



「日常生活の小さなつづき」



「シルバー川柳」



「我が家のキウイ」



(輪読図書)

H8 インタープリテーション入門

H16~22 日本どんぐり図鑑

調べて楽しむ葉っぱ博物館

草木と語る、キブシ通信(渡辺正美)

ほんとの植物観察(室井綽、清水美重子)

H23~24 ほんとの植物観察2(室井綽、清水美重子)

H25~26 種子たちの知恵(多田多恵子)

- H26～29 観察する目が変わる植物学入門
(矢野興一)
- H30 楽しい植物観察入門
- R元～2 続楽しい植物観察入門
- R3 日本の花を愛おしむ (田中修)

<輪読風景>



工作研修

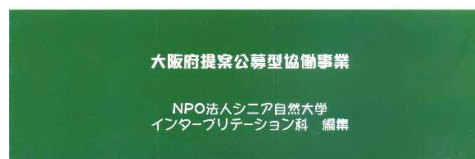
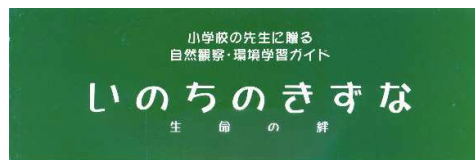
工作は小学校出前教室でも校庭自然観察と並行して行われることがよくあります。このため科員のスキルアップを図るため、工作研修を実施しています。

<平成 30 年 (2018) 8.17 工作研修>



「いのちのきずな」の発行

平成 16 年度大阪府提案公募型共同事業にインプリ科が応募し入選しました。小学校の先生方が環境教育を進めるにあたっての、指導書としての役割を担いました。



新入科員歓迎野草料理食事会

平成 14 年から始まり現在に至っています。

H14～23 茨木市中津コミュニティセンター

H24～R元 島本町ふれあいセンター

R2・3 感染拡大により中止

<H29.4.21 島本町ふれあいセンターにて>

